

評価シート

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2029年3月31日	評価番号	A-241	
評価技術名称					連絡先				
部分開口 構造用合板補強工法					https://www.aichi-gensai.jp				
大壁「1間 上下あき」薄棧あり					愛知建築地震災害軽減システム研究協議会				
					実験実施機関 :名古屋工業大学				
概要	技術概要								
	構造用合板を横向きで用いて、横架材及び土台と面材が接合されていない補強工法。 間柱、継手受材、上下受材の奥行きを30mmの薄棧とし、床天井間のみを構造用合板で補強する工法。								
	技術の特徴						コスト		
要	<ul style="list-style-type: none"> 天井・床を解体することなく補強が可能 1間の間に柱がない場合に有効 裏棧の奥行きは30mmなので壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能 						サンプル構面	17,389円/kN	
							設計見積り例	—	
適用範囲					写真・図				
構法		木造在来軸組工法							
規模		3階建て以下							
基礎、地盤		特になし							
適用部位		内外壁							
耐震性能									
評価仕様:大壁直貼仕様									
壁基準耐力		壁基準剛性							
3.64kN/m		511kN/rad./m							
A-111からの低減係数 $\alpha = 0.7$									
壁基準耐力 $5.2 \times 0.7 = 3.64$									
設計方法									
① 柱接合部による低減 : 取付部分が健全であること									
② 劣化による低減 : 取付部分が健全であること									
施工者指定									
特になし									
主要構成部材の仕様									
仕様	構造用合板		大壁、厚12mm、横使い、各高さ400mm以上						
			釘 N50、CN50、@100mm以下、四周打ち、端あき15mm以上20mm以下						
	間柱(縦棧)		奥行30×見付40mm以上、継手受材に対して受け						
	継手受材		奥行30×見付90mm以上、釘 柱に対し2-N75斜め打ち						
	上下受材		奥行30×見付90mm以上、釘 柱に対し2-N75斜め打ち						
	四方受材		なし						
	下地材		なし						
	アルミアングル		なし						
かさ上げ材		なし							
その他									
2024年 旧 A-244→A-241 に改番									